H29特別支援教育通信④

インクルーシブ

～わが子を見つめるための特別支援教育～

平成２９年９月７日（木）

文責：外尾優希（特別支援部）

＊発達障がいの理解を深めるために

発達障がいは、大きく「自閉症スペクトラム」、「注意欠陥多動性障がい（ＡＤＨＤ）」、「学習障がい（ＬＤ）」の３つに分けられます。現在、これらの発達障がいを有する生徒の数は、１クラス（３５名）あたり５～６名だと言われています。今月号では、「注意欠陥多動性障がい（ADHD）」について、紹介をしたいと思います。

＊「注意欠陥多動性障がい（ＡＤＨＤ）」とは？

・主な症状は、「不注意」・「多動性」・「衝動性」の３つに分類される。
・これらの症状が、少なくとも２つ以上の場面や状況（例：学校と家庭など）で見られる。
・知的な遅れとの関連性はない。

不注意

集中力が続かない
気が散りやすい
忘れっぽい

多動性

じっとしているのが
苦手で、落ち着きが
ない

衝動性

思いついた行動について
行ってもよいか
考える前に実行して
しまう

・忘れ物が多く、物をなくしやすい
・気が散りやすく、集中力が続かない
・興味があるものには集中しすぎてしまい、切り替えが難しい
・ボーっとしていて話を聞いていないように見える
・行動が他の人よりワンテンポ遅れる
・字が乱れる　・不器用　・片付けられない

（※ADHD であることに気づかれにくい）

・落ち着きがなく、授業中などに立ち歩く
・体を動かすことがやめられない
・ささいなことで手を出してしまったり、大声を出したりする
・周囲の状況や空気を考えずに、思ったことや言いたいことを、言葉に出してしまう
・乱暴な子、反抗的、という目で見られやすい

※不注意と、多動性・衝動性の両方の特徴をもつ混合型もある。

＊　ＡＤＨＤの特性を理解した上で　～家庭生活でも使える声かけを指導の工夫～

① 指示は具体的に一つずつ（長々と言わない）
② 視覚的な工夫をする　　（絵や写真、メモを活用する）
③ 守りやすいルール＆ごほうびでやる気を引き出す
④ うまくいかないときは理由を考えて環境を変える
⑤ 良いことやできたことに気がついたらすぐに褒める

私たちが、一生懸命頑張っているのに、できないことや苦手なことを頭ごなしに言われても困ってしまうのと同じです。特性を理解し優しく説明すること、そして結果がうまくいけばしっかりとほめること、これが大切なのです。

ご意見・ご質問，また教育相談の要望やお悩み等ありましたら，プリント裏面にご記入ください。